



Making the equipment of the small house

STEP 6

小屋をもっと快適にするために……

セルフビルドで 設備の自作に挑戦！

小さな建物でもキッチンやトイレ、お風呂などがあれば、そこに暮らすことができる。

より快適なスモールハウス・ライフを実現するために、
セルフビルドだからこそ楽しめる設備工事にチャレンジしてみよう！

STEP
01

「キッチン」を自作しよう!

ツーバイ材や合板、タイルなどを組み合わせれば、意外と簡単に作れるのだ

小屋といっても第5章ぐらいの規模の建物になれば、水まわり（キッチン、バス、トイレなど）を設置することで、そこに暮らすことができる。水まわりの施工では上下水道の工事も必要になるので、プロの業者と相談しながら自分でできる範囲のことをやってみよう!

さしあたって、小屋に欲しいのが「キッチン」。システムキッチンのような大げさなものでもなく、コンロと流し台があれば料理を楽しめる。キッチンを自作する場合でも、あらかじめ上下水道やガス管などの設置が必要だ。簡単でもいいのでキッチンの図面をもとに、プロの業者に相談してみたい。

キッチンそのものは、意外と簡単に自作できる。一番手軽なのは、ツーバイ材で脚となる枠を組んで、そこに調理台となる天板を乗せる方法。天板の材料はいろいろあるが、加工しやすい耐水合板がよく使われている。本ザネの床板を流用してもいいし、奮発して厚い一枚板を使うのもいいだろう。天板にタイルを貼ったり、ウレタン塗装などを施せば防水もバッチリだ。

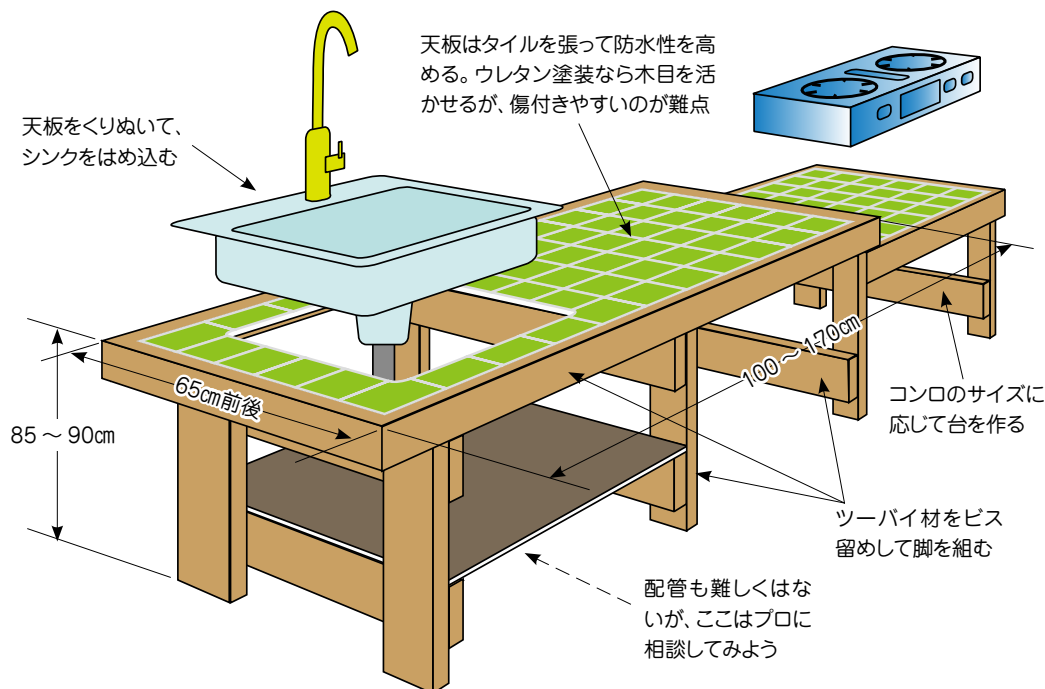
流し台については、天板の一部をジグソーで窓抜きし、そこに市販のシンクを収めるのが簡単。シンク単体はネット通販や一部のホームセンターで購入できる。シンクと天板との継ぎ目はていねいにコーキングして防水対策を施しておきたい。シンクの底面にある排水管は、床に設置した排水口に接続。上水道の配管は、フレキシブルに調整できるブレードフレキを利用するのが簡単だ。

コンロはガス式なら配管を業者に依頼し、IH式なら200Vのコンセントを新設しよう。もちろん、小屋で簡単な料理を楽しむ程度ならカセットコンロにするのも悪くない。あとは、コンロの上部の壁にホームセンターなどで売られている大型フード付きの換気扇を設置すればキッチンの完成だ。

なお、キッチンを作る場合は防火対策を講じる必要がある。具体的には、コンロの周囲の壁や天井にケイカル板などの不燃材を使って仕上げていく。近年では、ケイカル板にもいろいろなカラーが登場しているので、センスと工夫次第で楽しい空間を演出できるだろう。

◆キッチンの施工例

これは、ツーバイ材で脚を組んで、耐水合板の天板にタイルを張った例。サイズは目安なので、小屋の大きさやキッチンを使う頻度などで調整してみたい。天板は、シンクを兼ねたステンレス製のワークトップをそのまま乗せてしまうのもありだ。また、天板に一枚板を使うなら、木目を活かしてウレタン塗装してみるのも楽しい。ただし、ウレタンは熱や傷に弱く、メンテナンス性にも難がある。その意味では、オイル仕上げにしてマメにメンテするスタイルでもいいかも知れない。脚まわりは扉や引き出しなどを付けて、キャビネット風にするのも楽しい



◆オリジナルキッチンを作作してみる！

これは、知り合いの女の子が自作したキッチンの例。①まずは、周囲の壁や天井にケイカル板を張って耐火対策を講じる。漆喰などで仕上げればバッチリだ。②天板にはいろいろな材料が使えるが、ここでは12mm厚の耐水合板を使用。シンクがはまる位置に、ジグソーで穴を開けておく。③ソーバイ材で作った脚に天板を乗せ、さらにシンクを天板の穴に落とし込んでみる。脚や天板の接合には、ステンレスのコーススレッドを利用。防水や汚れ対策として、適宜、自然系の安全な塗装を施しておけば安心だ。また、シンクと天板との継ぎ目は、シリコンコーキングで目止めしておくといよい。④天板にタイルを張れば、防水性がアップして意匠もよくなる。タイルもいろいろな種類があるが、DIY向けのシート状になったものが手軽だ。写真は、専用の接着剤を塗ってからシートを貼り付けるタイプ。シートの裏側に粘着シールになっていて、直接張り付けられるタイプもある。⑤タイルシートを張って接着剤が硬化したら、水で練った目地材（目地モルタル）をゴム製のコテで埋め込んでいく。⑥目地が硬化する前に、専用のスポンジでタイル表面に付着した余分な目地材を拭き取る。目地材が硬化したら自作キッチントップの完成だ。⑦シンクの下側にある排水トラップと排水管をジョイントする。同様に、上水道もブレードフレキなどを利用して配管する。これらの配管工事は基本的に資格が必要となるので、業者に依頼するのが基本だ。⑧換気扇のフードは市販品もあるが、このように板材やステンレス板を使って自作するのも楽しい。⑨キッチンの天板と壁との合わせ目にもコーキングを施しておきたい



◆お湯が使える混合水栓の取り付け方

①キッチンでお湯を使いたい場合は、このような瞬間湯沸器を利用するのが一番手軽だ。ガス管の接続は業者に依頼しよう。②別途、給湯器を設置する場合は、混合水栓を付ける必要がある。まず、取り付け脚のネジ部にシールテープを時計回りに7周ほど巻く。③給湯、給水の両方の取り付け脚をそれぞれの配管に取り付ける。時計回りにねじ込み、最後にハの字になるようにする。途中で逆回しするとシールが切れてしまうのでやり直そう。④水栓本体を脚に取り付けてナットを軽く締める。⑤本体を水平の状態に調整してから、スパナでナットを本締め。⑥接続部からの水漏れをチェックして完了だ



◆自作キッチンのいろいろ



【ツーバイ材とタイルの定番型】

キッチン本体は、ツーバイ材の脚に集成材のワークトップを乗せてタイルを張った定番型。木部にはアースカラーの自然系塗装を施し、タイルのモザイクとのバランスがじつにいい感じだ。L字型のキッチンの手前側にあるワークテーブルも、もちろん手作り。これだけの広さがあれば、パン作りやソバ作りなども十分に楽しめそうだ



【小屋にはジャストサイズのミニキッチン】

小屋の中でたまに料理を楽しむ程度なら、写真ぐらいのコンパクトなキッチンでも十分だろう。ツーバイ材同士を接着して自作した天板はウレタン塗装で仕上げ、キャビネット部分は1×4材を組み合わせたものだ。扉も1×4材を枠にして、羽目板の端材を張り付けているのだが、ミニキッチンの軽快な雰囲気にマッチしている



【意外と便利な屋外型】

釣ってきた魚をさばいて料理したり、家族や仲間たちと外で食事をするときに意外と便利なのがガーデンキッチン。シンクはステンレス製の業務用を流用し、小屋根をかけるだけでも十分に機能的なのだ

【システムキッチンも自作できるぞ！】

女性にとっては憧れの「システムキッチン」。メーカー品でも定価よりかなり安く買えるが（店頭展示品ならさらに安い）、もちろん、その気になれば自作もできる。基本的にはワークトップ、シンク、コンロにプラスして、木の扉などで棚を作り付ければ、かなりウディな雰囲気を楽しめるだろう

◆「カマド」を作って、おいしいご飯を炊こう！

昔ながらのカマドでご飯を炊くと、メチャクチャおいしいことをご存知だろうか？ 火力の強い薪と保温性に優れたカマド、そして羽釜との組み合わせが、10万円の炊飯器を凌駕する絶妙な機能を果たしてくれるのだ。

カマドの作り方は簡単。ペール缶などを型にして粘土（田土など）1：砂3の比率で練った土をカマドの形状に盛り上げていく。このとき、古瓦の破片や平らな石などを骨材として混ぜながら、空気が入らないように10～15cmほどの厚みで形成していくとよい。土が半乾きになったら型を抜き、焚き口や煙突口を設けて完成。好みに、漆喰を混ぜた土で表面を仕上げるのもよい。



カマドの上面には、リング状の「釜つば」を設置すると便利。煙突は新ストープ用を流用すればOKだ。なお、カマドは濡れに弱いので、屋外に設置する場合は上に小屋根をかけるように

STEP 02

「お風呂」を自作しよう！

お湯が沸く仕組みは、意外とシンプル。太陽熱温水器のDIYも楽しいぞ！

以前、長野県の温泉地に暮らす友人と露天風呂を作ったことがある。このときは、ホームセンターで売っているアングルや鉄板をタッピングビスで組み合わせて底板を作り、浴槽の側板にはスギ丸太を組み合わせて設置した。鉄板の下で焚き火をしてお湯を沸かす、少々変則的な「五右衛門風呂」になるわけだ。ところが、いざ浴槽に水を満たしてみると結構な水圧がかかるらしく、丸太の継ぎ目に埋めたコーキングが裂けてシャワーのごとく水が漏れてしまった。そこで後日、今度は丸太の内側からFRPをコーティングして完全防水にすることに成功。近所からもらってきた温泉も浴槽に継ぎ足して、ふたりで極楽の露天風呂を楽しんだのだった……。

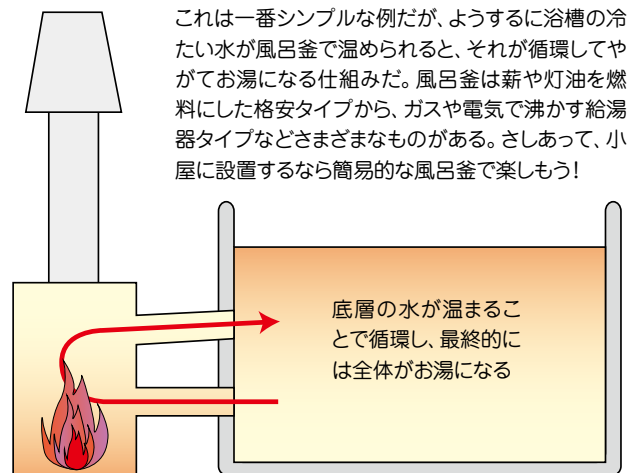
離れや下屋に風呂を作るメリットとは？

建物の中にお風呂を設ける場合、一番のポイントになるのが防水や湿気対策だろう。大量のお湯（水）を扱うことになるので、施工が甘いとどうしても水漏れの心配がある。そこで、一般住宅でも現在の主流になっているのが「ユニットバス」だ。これなら壁の内側にさらに完全防水の壁を作ってしまうので防水性は完璧になる。ゴージャスなものは高価だが、ホームセンターなどでは意外とリーズナブルに売られているものもある。取り付けも自分でできないことはないものの、ここはプロに任せるのが無難だろう。

とはいえ、お風呂の原理はイラストのようにとても簡単。自分で浴槽を設置して、風呂釜を取り付けるだけでもOKなのだ。フルオートの湯沸かし器の快適さにはかわないが、我が家も長年にわたって灯油式の風呂釜を使ってきて、これはこれでとくに不便は感じなかった。五右衛門風呂と組み合わせたり、岩風呂風に見れば、小屋ならではの究極のバスタイムを過ごせるだろう。

問題は水漏れ対策だが、一番手っ取り早いのは風呂専用の小屋を作ってしまうこと。昔の日本家屋と同じ考え方で、水まわりを母屋から離して作ることで水漏れ時の

◆お風呂が沸く原理



トラブルを最小限に留めようというわけだ。それに、また新たに小屋を作るという楽しみも増える（笑）。そもそも、小屋規模の建物内にバスルームを設けるのは、スペース的にも限界があるだろう。

お湯を沸かす方法は、風呂釜や給湯器を利用するのが一般的だが、太陽熱を利用した温水器を試してみてもおもしろい。現在では屋根の上に設置する真空管式の太陽温水器がポピュラーで、設置もDIYで可能だ。そしてさらに、温水器そのものを自作してしまう裏ワザもある。塩ビ管やペットボトルを利用する方法はよく知られているが、ここでは2重ポリカーボネートと塩ビ管を使う方法を紹介する。シンプルな配管なら材料費も1万円ほどなので、かなり画期的なシステムだと思う。



離れを作る方法のほかに、既存の小屋に下屋を作ってそこに風呂を設置するのもありだ

◆手作り風呂のいろいろ



【合板やFRPなどで作る】

浴槽や浴室の自作でよくあるのが、合板や板材で下地を作って防水加工する方法。写真は耐水合板で浴槽や床、壁を作り、特殊な漆喰で防水仕上げした例だが、防水性に優れるFRP（繊維強化プラスチック）で仕上げるのも簡単確実だ。いずれの場合も、浴槽には内部に断熱材を充填すると保温性がよくなる。もちろん、床には排水口を設けておこう



FRPの材料であるガラス繊維や樹脂、硬化剤などは、ホームセンターやネット通販などで購入できる



FRP施工では下地材にシーラーを下塗りし、ガラス繊維を張って樹脂を浸透・硬化させていくのが基本



【五右衛門風呂タイプも楽しい】

室内に五右衛門風呂を設ける場合は、給湯式にするのが防火の点でも安全だろう。これなら、防水処理した床に風呂釜を置くだけで済む。写真の例は、風呂釜の周囲にセメント入りの粘土を覆うことで保温性を高めている



【屋外型の薪風呂】

こちらは、斜面を利用した高床の下側に焚き口を作り、その上に五右衛門風呂を設置したお風呂。もちろん、燃料は薪だ。このタイプにする場合、焚き口側は耐火レンガや粘土などでしっかりとしたカマドを作り、かつ、浴室ごと屋外か下屋の空間に設置するのが防火対策の基本となる



【岩風呂風に仕上げてみる】

浴槽は普通のFRP製のバスタブでも、浴室の壁に自然石をあしらうと一気に岩風呂の気分を楽しめる。岩はホームセンターや石材店などで入手可能だ。岩を壁に貼り付けるときは、耐水タイプの石材用エポキシ接着剤を使用。下地材はしっかり防水処理したおきたい

◆「薪で焚く風呂釜」を見直してみよう！

現在、一般住宅のお風呂はエコキュートやエコジョーズといった給湯器で沸かすのが人気だが、小屋の暮らしをリーズナブルに楽しむなら、より小型の「風呂釜」がお勧めだ。とくに、写真のような薪を焚く昔ながらのタイプは、沸かしたお湯が軟らかくなって湯上がりもポカポカになるといわれている。仕組みも前ページのように単純明快なので、小屋に導入するにはピッタリだ。風呂釜は、薪と灯油を併用するタイプも売られている。



薪の風呂釜に、ステンレス浴槽を組み合わせた例。実際には、風呂釜は土間や下屋などの屋根の下に設置するのが基本だ。煙突の設置方法は261ページを参考に！

STEP
03

「トイレ」の設置方法

設置自体は素人でも可能。離れに作るなら、「コンポストトイレ」も検討してみたい

現在の住宅設備、とくに水まわりの設備は施工者の技量の違いによるトラブルをできる限り回避するために、取り付け方法が非常に簡素化されている。これはトイレにもいえることで、付属の施工説明書をよく読めば素人の施工も十分に可能だ。とはいえ、前述したように配管の工事は資格が必要なので、そこだけはプロに依頼するのが基本。設置に関しても、あらかじめメーカーから施工図を取り寄せ、トイレの機種に合わせて適切な位置に給水・排水の配管工事をしてもらおう。なお、便器本体や温水洗浄便座などは、ホームセンターのリフォームコーナーやネット通販などで購入できる。

ところで、私が第5章の木の家をセルフビルドしていたときは、現場にトイレがなかったので女性客の対応が結構大変だった。そこで作業の合間を縫って作ったのが、掘り立て風のトイレ小屋だ。丸太の間伐材を焼き焦がして基礎杭にし、その上に1畳弱の小屋をツーバイ構法で作ったのだが、肝心のトイレは以前から試してみたかっ

た「コンポストシステム」を採用した。これは、自然界にある微生物の力で汚物を分解するという優れたもの。コンポストトイレ自体は市販もされているのだが、これが想像以上に高額で、ヘタをすると100万円近くするものもある。さすがにそんなお金は払えないので、思いついたのが敷地内の畑に置いてあった「コンポスター」を利用する方法。これを少しだけ地中に埋めて、その上にトイレ小屋を建てるだけで、たったの1日で完成させることができた。

使い方は簡単で、用を足したあとにオガ屑や米ぬか、枯れ葉などをひとつかみ分投入するだけ。これで適度な空気層と水分が保たれて、好気性発酵を促してくれるのだ。オガ屑や枯れ葉などが微生物を供給する発酵促進材としての役割も果たしてくれ、嫌気性発酵と違って嫌な匂いがしなくなる。むしろ、発酵中のいい香りがするほどで、女性の来客者もみんな満足してくれた。もちろん、ウチの嫁にも好評だ。

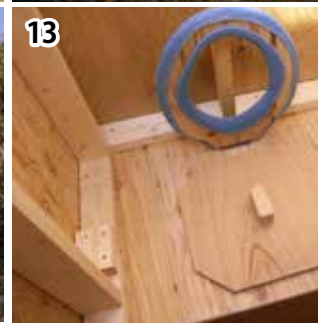
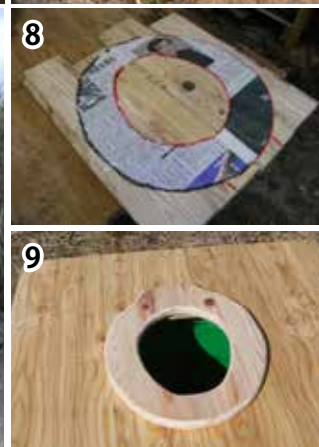
◆トイレの取り付け例

①自分でトイレを設置する場合でも、イラストの例のように事前に上下水の配管を業者に依頼しておく。②配管の位置は、施工説明書に明記されている。③同梱の型紙を利用して、便座の取り付け穴をドリルで開ける。機種によっては、固定用のパーツもビス留めする。④便器の排水口に付属のパッキンを装着してから、排水管にしっかりと差し込んで設置する。押し込み不足に注意! ⑤固定用のビスをドライバーで締め付けて便器を固定する。⑥付属の給水ホースで、便器と止水栓を接続する(写真は壁給水の例)。給水ホースがねじれたり折れ曲がったりしないよう向きを調整しながら作業する。この後、必要なカバーを取り付けて便器の設置が完了。⑦ウチのトイレは木の雰囲気を楽しむために、トイレ内に自然木を利用した手洗い台を設置した。⑧ついでに、内装にはスキの羽目板を張ってみた



◆不快な匂いがゼロの「快適コンポストトイレ」の作り方

①まずはトイレ小屋を建てる位置の四隅に丸太の基礎杭を立てて、それを繋ぐように2×4材の土台をビス留めする。さらに、その中央にコンポスターを設置するための穴を掘る。深さは20cmほどでOKだ。丸太杭はあらかじめ焼き焦がしておこう（62ページ）。②穴にコンポスターを設置する。コンポスターはネット通販で購入できる。今回は中古品を流用。③コンポスターがぐらつかないように2×4材の根太を入れる。このとき、コンポスターと根太の上端がピッタリ水平になるように、最初に掘った穴の深さで調整するのがポイント。④根太に12mm構造用合板をビス留め。あらかじめコンポスターの位置に、通常の便器程度の穴をジグソーで開けておく。これで合板がコンポスターを押さえつける状態になり、すき間からの虫の侵入を防げるわけだ。⑤床部分にも12mm合板を張る。⑥土台の上に壁の下地となるツーバイ四を乗せていく。ツーバイ四の作り方は第1章を参照。⑦同様にして屋根材もツーバイ四材で作る。ここはシンプルに片流れ屋根とした。⑧ついでに、便座も端材をボンドで貼り付けて自作した。新聞紙を型枠にして、⑨ジグソーで切って蝶番で取り付ければOK。⑩ドアは2×4材と野地板で作製。⑪室内側のカギは、自然木をビス留めして作る。⑫壁枠に合板、屋根にポリカの波板を張って、トイレ小屋の完成！⑬虫の発生を防ぐために、合板でフタを作って便座に設置した。ちなみに、コンポストトイレでは堆肥化したコンポストを定期的に取り除く必要があるのだが、この自作トイレは何年も経つがいまだに最初に掘った穴の深さをキープしている。つまりは、汚物もオガ粉も枯れ葉もすべて分解消滅している状況なのだ。敷地の環境にもよると思うが、このコンポストトイレは、本当に役立っている



◆建物内にコンポストトイレを設置する方法

コンポストトイレは、建物内に設置することも可能だ。もちろんその場合でも、用を足したら発酵促進材としてのオガ屑やぬかなどを定期的投入する必要がある。また、堆肥化したコンポストも定期的に取り除くことが必要だ。

写真の例では、トイレ下側の基礎内に堆肥を溜めるための大型タンクを設置。タンクは滑車に乗せて、基礎下に設けた扉から屋外に移動できるように工夫している。



工夫次第で、小屋の中にコンポストトイレを設置することもできるのだ

STEP
07

「エアコン」の取り付け方

小屋といえども、エアコンがあるだけで夏の酷暑も超快適!

海の近くにある我が家は、真夏でも浜風が吹くと涼しく過ごすことができる。しかし、とくに事務所にしている部屋は西日が直接当たることから、無風のときには灼熱地獄と化す。さすがに全然仕事にならないので、エアコンを導入することにした。人工的な風は好きじゃないのだが、近年の異常な酷暑にはあらがえないのだ……。

エアコンの取り付け自体は簡単で、添付されている説明書を読めばだれでも1～2時間ほどで作業できる。また、取り付けにはエアコン本体以外に配管類が必要になるが、ホームセンターやネット通販ではそのものズバリの「エアコン配管キット」なるものが売られている。フレア加工済みの銅管（保温材、ナット付き）、保護テープ、粘着テープ、サドル（留め具）、パテ、ドレンホース、ウォールカバー（壁内パイプ）、配線用ケーブルなどが過不足なく含まれていて数千円なので、これを利用すれば材料費も無駄にならない。ただし、電気ケーブルの結線やアース作業は資格が必要になる。前述したよ



暑さ対策では小屋の中に風が通る間取りにするのが基本だが、無風のときにはエアコンがあるとメチャクチャ快適に過ごせる。写真は木の家のロフトに取り付けた例

うに、やっぱりセルフビルドでは電気工事士の資格があると絶対に役立つのだ。

作業の最大のポイントになるのが、「エアパーシ」と呼ばれる工程。これは、接続した配管内の空気や湿気などを完全に抜き取る作業で、これをしないとエアコンがうまく作動しなくなり、ヘタをすると故障の原因にもなる。エアパーシに必要な真空ポンプやトルクレンチなどもネットでレンタル利用できるので、ぜひともこれらを用意してチャレンジしてみよう。

◆エアコンの取り付け方法



①最初に室内機を取り付ける金具をビスで壁に取り付ける。ビスは下地の間柱に利かせよう。②壁内に配管を通すための穴をホールソーなどで開ける。壁内の電線を切らないように注意。③壁の内部に虫や雨水が浸入しないようにパイプを挿入しておく。④室内機にFケーブルを結線し、室内機の配管と一緒にパイプへ通しながら、壁の金具板に取り付ける。⑤これが「配管キット」。必要な長さの配管を入手しよう。⑥屋外側に配管をジョイントし、ケーブルと一緒に保護テープでまとめてから粘着テープで束ねる。壁内の配管は、若干の水勾配をつけてドレンホースからスムーズに水が流れるようにするのがポイント。壁穴のすき間はパテで埋めておく。⑦室外機に配管とケーブルを接続。配管作業はトルクレンチを使用するのが基本だ。⑧エアパーシはレンタルの真空ポンプを利用。説明書通りに作業すれば難しいことはない。⑨最後に配管の劣化を防ぐためにカバーを取り付けて完成!

◆作って楽しいあんな小屋、こんな小屋。「素材」について考える

本書で紹介している小屋は、ツーバイ材や角材、丸太（間伐材）などの「木」を使って構造体を作っている。しかし、考え方をもっと柔軟にすると、ほかにも小屋を作れる材料は「無限」にあるのだ。

まず、日本家屋でも普通に使われてきた「土」。現在では、土を袋に詰めて積み上げていく「アースバックハウス」と呼ばれる構法もある。下の写真は私の知人たちが作ったもので、土に消石灰やセメントを混ぜて土嚢袋に充填。それをレンガのように積み上げて壁を形成している。壁の上部にアンカーボルトを垂直に埋め込み、それで屋根の垂木をジョイントしている。壁の幅は30cmほどあるので、強度や断熱性能はかなり期待できるだろう。

そして、日本における小屋作りの材料として、無限の可能性を秘めているのが「竹」だ。下の例も、私のセルフビルド仲間が、バンブーハウス作りの盛んなバリ島で修行したノウハウを盛り込んだもの。

竹は丸のまま骨組みの材料にするのもいいが、細かく割くことで自由自在の形を作ることができる。柔軟構造なので強度もそれなりにあって、しかも材料費はタダ。いまの日本の里山では邪魔者扱いされてもいる竹だが、この貴重な資源を活用しない手はないだろう。

そして、忘れてならないのが「稲ワラ」。ご存知のようにワラ葺き屋根や小屋などで古くから使われてきた材料だ。耐久性には難があるものの、何層にも重ね合わせることでそのデメリットを緩和できる。工夫しがいのある素材と言えるだろう。

ほかにも、不燃性の「布」を利用したティピー、自然の素材ではないが足場用の「単管」も手軽に利用できる材料だ。どんな材料を使うにしても、それをうまく活用するには創意工夫が必要になるが、なんとか完成させたときの感激は、建物の規模に関係なく最高のものになると思う。

アースバックハウス



現場の土などを袋に詰めて壁を作る。じつに潔く、シンプルな建物だが、見る人を圧倒させる魅力を秘めた「アースバックハウス」。体力に自信があれば、チャレンジしてみる価値はありそうだ

バンブーハウス



仲間がバリ島で作った4畳の小屋。アーチスティックな屋根の形状は、柔軟に曲げられる竹ならではの（屋根は銅葺き）。竹の多い日本でも、もっとバンブーハウスが見直されてもいいと思う

ワラ葺き小屋



竹で組んだ駆体に、束ねた稲ワラを巨大な竹串を利用してワラ縄で縫い込んで作った小屋。縄文時代の竪穴式住居を彷彿とさせるワイルドさが魅力的だ

ティピー



竹の骨組みに防災シートを巻いて作った「ティピー」。中で火が焚けるので、木の家を作っているときは、ここが宴会場になった。大人が20人ぐらい入れる広さだ

単管ガレージ



小屋とは呼べないほどの大きなガレージだが、単管を使えば1人で駆体を組み立てられるのだ。壁はガルバ鋼板、屋根はガルバの折板（せっばん）を張っている